

北海道・東北エリア

北海道霧多布高等学校

北海道小樽水産高等学校

山形県立加茂水産高等学校

宮城県水産高等学校

東京都立芝商業高等学校

千葉県立安房高等学校

東海大学付属浦安高等学校・中部部

神奈川県立海洋科学高等学校

本校は北海道の東、釧路市よりもさらに東に位置しており、昆布をはじめとした漁業が盛んな浜中町唯一の高校です。日々の営みの中でアマモが身近な街であり、2015 年より外部講師の方をお招きし、アマモについての知識を深め、アマモ場のモニタリング活動を行ってきました。2015 年から受け継いできたこの活動の後輩達へと受け継いでいきたいです。

私たちは海洋漁業科は、北海道の日本海側にある小樽市で、小樽水産高校のある小樽港周辺の藻場とスカモ（アマモ）調査活動を行いました。スガモは小樽の代表的な魚であるニシンの産卵に一番活用されている役立つ海藻です。小型船舶からの目視、マリンスポーツ活動の他、ドローンを活用した調査の報告をします。

写真は、7 月のアカモクの苗を粗放培養試験で海底設置している様子です。アカモクの幼体が活着したコンクリートの塊が一つ一つの苗となります。浮かせて設置することで食害を防ぎ、陸上培養で必須な珪藻除去作業からも解放されることを期待しており、9 月に本格的な苗の海底設置を行い、藻場が出来ることを楽しみにしています。

本校は宮城県東部中央に位置する牡鹿半島の付け根にある水産高校です。学校近くの実習場前には太平洋と狭い水路でつながっている「万石浦」という内湾があります。この万石浦を中心に3年生が課題研究班に分かれて「アマモ」の生息場所の確認なども行っており、本年度も何度か出掛けていますが、一昨年まであったアマモの群生地は殆ど消滅しているような状況です。

こんにちは。東京都立芝商業高等学校ひがた部です。本校は東京都港区にあります。私たちは、学校近くの複合施設ウォーターズ竹芝にある人工の干潟「竹芝干潟」の保全と発展、魅力発信のためにできることを企画立案し、活動をしています。商業高校ビジネス科の学習を活かし、様々な角度から商業高校生ならではのアプローチを行っています。

館山、木更津、鋸南…。この数年で東京湾から次々とアマモが姿を消しつつあります。海辺の生態系の土台としても、温室効果ガスの吸収源としても貴重なアマモ。地域固有の遺伝子を守る域外保全のための栽培方法の確立は急務となりました。私たちは、様々な人々からお力添えを頂きながら、今の私たちにできることに精一杯取り組んでいます。

千葉県浦安市にある「文武両道」を校風とし、高校・大学の一貫教育を特色とした学校です。知・徳・体のバランスがとれた教育を通して「人格の完成」を目指しています。運動部の活動が盛んですが、文化部も地道に活動しています。私たちは主に生物の飼育や採集、浦安市役所の水槽掃除、植物栽培を行っています。昨年、本サミットに参加し刺激を受け、水槽でのアマモ飼育に取り組んでいます。

本校地先の小田と湾のアマモ場再生を目指し植栽をしています。アイゴの食害に苦慮しています。昨年に至っては、ネットの目合を通り抜けるアイゴ稚魚による食害を受け全滅しました。そこで今年は稚魚対策に重点を置き、アイゴの飼育やネットの比較実験を行ったうえで植栽を実施しました。結果はいかに？！

近畿・中国・四国エリア

高校生サミット
発表団体の紹介

本年度は、北海道から九州まで、全国 21 校・団体の高校生が
日ごろの研究や活動成果を発表します。

福井県立若狭高等学校

関西大学北陽高等学校

岡山学芸館高等学校

柳井学園高等学校

愛媛県立宇和島水産高等学校

本校は、地域資源を活かした探究活動を通じて、課題設定力や科学的思考力を育成します。4 学科体制により多様な進路実現が可能で、地域や大学と連携した先進的な学びが魅力です。探究を通して、私たちは小浜市の漁獲量が減少しているのは、アマモの減少が関係していると考えました。アマモをより強く、発芽しやすくなるようにアマモの発芽率向上と成長の促進をテーマに探究をしています。

本校は、海への理解を深める「海洋教育教材作り」に取り組んでいます。2025 年度の Mission は、海の問題を「自分ごと」にできる楽しい教材『umi のカードゲーム』の完成です。未来へ「豊かな海」をツナグために、一人でも多くの方に「海」を大好きになってもらいたい。そんな想いで取り組んでいます。

医進サイエンスコースでは、里海の聖地と呼ばれる岡山県備前市日生町で、2017 年から海洋学習に取り組んでいます。1 年次にはアマモ場再生活動と聞き書きを、2 年次には牡蠣の養殖体験や課題研究を行っています。今年は、牡蠣殻粉末を海砂に混ぜることで実生ポッド内のアマモ成長にどのような影響が出るのかを研究しています。

本校では魚離れが進む中、地魚の魅力を伝えるため、2008 年から漁協青壮年部が講師となり、魚料理教室を実施しています。生徒が魚を自分で捌いて調理する体験を通じて、地元の家やアマモへの関心と理解が深まっています。

本校では、「水産増殖研究部」が中心となり褐藻類であるクロメの保全活動に2023 年 10 月より取り組んでおります。2024 年度は宇和島市九島へ生育したクロメの移植と学校内の屋外水槽においてクロメ藻体をスボアバックに詰め込み、スボアバックの破断（溶解）試験を行いました。

福岡工業大学附属城東高等学校

福岡県立山門高等学校

福岡県立新宮高等学校

team長崎シー・クリーン

熊本県立芦北高等学校

エコユースやつしろ

鹿児島県立鹿児島水産高等学校

鹿児島県立古仁屋高等学校

私たちは、博多湾の自然をもっと豊かに！をモットーに、博多湾内の生き物を調査し、結果をまとめ図鑑化する活動をしています。さらにアマモ場やアサリなどの資源の再生を目指したり、海のものものの活用を行ったりしています。

山門高校は、ウナギ稚魚を特別採捕して飼育中の生態研究を行うことができる唯一の高校です。淡水中でクスノキ落葉をウナギ水槽に入れることで、水替えの必要のない持続的な水環境が維持されることを発見し、その飼育法でウナギの死亡率を低下させましたが、今年は、海水中でもクスノキ落葉の効果があることを発見しました。

新宮高校では「畏敬・誠実・創造」を校訓とし充実した高校生活を送っています。普通科と理数科があり、理数科では高大連携のセミナーや課題研究など様々な探求活動を行っています。私たち新宮浜班は漂着物の採集や砂浜の測量を実施し、データを残すことで自然保護に向けた取り組みに繋げるため日々活動しています。

当団体は、世界遺産・軍艦島が映える海を守る環境団体です。「伝える・つながる・広がる」を理念に、ビーチクリーンや環境教育、海洋生態系保護、地域の魅力発信を実施。中高生から漁師、行政職員、大学・高校教員など幅広いメンバーで構成。コカ・コーラ環境教育賞最優秀賞を受賞するなど国内外で高く評価されています。

私たちのアマモ場再生活動は、今年で23 年目を迎えます。これまで多くのアマモ場造成技術を考案し、毎年、5 月～7 月に種子散布、12 月～3 月に苗の移植に取り組んでいます。今年3 月には、熊本県初となる「ブルークレジット 31t を取得しました。また、昨年からコアモモの造成研究にも取り組んでいます。

「エコユースやつしろ」は、2021 年7 月に「次世代のためにがんばる会」を母体に設立。浜辺の清掃や不法投棄の視察などを行い、2025 年3 月に愛称が決まった「生き物溜り」球磨川河口干潟で、毎月「いきもの調査」を実施し、45 種の希少種を確認しました。市民参加を促し、八代海の再生にも力を注いでいます。

私たち鹿児島水産高校は、令和4 年度から、「おとひめの結プロジェクト」として南さつま市でアマモ場再生を行っています。光合成細菌がアマモに与える影響や、より良い発芽率の研究をしています。今年度は、近隣の高校とも連携しCO₂貯留量の算出等や実験を行うとともに、鹿児島県にアマモ場再生を広める取組を行っています。

古仁屋高等学校まちづくり研究部は、地域の課題についての探究活動を行っています。一昨年、瀬戸内町役場からお声がけいただいたことがきっかけでマングローブの植栽活動のお手伝いをしています。昨年度から植栽環境のモニタリング調査、マングローブの生態に関する研究を地域の方と連携して行っています。